

令和 2 年度

教育委員会の活動状況等に
関する点検・評価報告書

令和3年8月

黒松内町教育委員会

目 次

はじめに

I 点検及び評価の趣旨	1
II 点検及び評価の概要	2
III 点検及び評価に関する実施方針	5

第1章 教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議の開催・審議状況	9
2 規則・要綱等の制定及び改正等	12
3 教育委員の活動状況	13
4 教育功労者等の表彰	14

第2章 令和2年度事務・事業の点検及び評価

1 学校と地域、保護者、関係団体が一体となりまち全体で子供たちを守り育みます	
(1) 子供の未来を育む子育て支援	
① 保育・放課後児童対策事業	17
② 子ども子育て相談支援事業	18
③ 青少年教育の充実事業	19
2 幼児から学齢まで切れ目のない一貫した教育を展開し、未来を担う子供たちを育みます	
(1) 「確かな学力」と「生きる力」の育成	
① 全国学力・学習状況調査	20
② 学習支援員(特別支援教育補助員)の配置	21
③ 学校ICT環境整備事業	22
④ 町営塾・適応指導教室運営事業	23
⑤ 国際理解教育等推進事業	24
⑥ 食育振興事業	25
⑦ 学校給食センター施設等整備事業	26
⑧ 学校施設整備事業	27
(2) 地域と共にある教育の推進	
① コミュニティ・スクール設置事業	28
② 地域学校協働本部(総合的な学習)運営事業	29
(3) 負託に応える学校づくり	

① 教職員の資質能力の向上事業	30
3 豊かな自然を保全し、心豊かに、ともに支え合う人を育みます	
(1) 生涯学習の推進	
① 地域コミュニティー振興事業	31
② 世界文化遺産・西予市交流体験学習事業	32
4 文化、スポーツの環境を整え、機動的な組織づくりを進め、ふるさとと平和を愛する人材を育みます	
(1) 文化の振興・読書活動の推進	
① 文化・芸術活動の推進事業	33
② 文化財の保存、活用事業	34
③ ふれあいの森情報館活動事業	35
④ ブナセンター活動事業	36
(2) 生涯スポーツの振興	
① 生涯スポーツの推進事業	37
② キャンプ場活動事業	38
5 子供の学びの環境や、生涯学び続けられる環境を整えます。	(略)
6 全体評価	39

参考資料

1 教育委員会組織機構図	47
2 教育関係予算の状況	48
3 学校の児童生徒・教職員数	50
4 各施設利用者数	
(1) 総合町民センター	51
(2) ふれあいの森情報館	51
(3) ミニビジターセンター	51
(4) 各運動施設	52
(5) ブナセンター	53
(6) オートキャンプ場	53

は じ め に

I 点検及び評価の趣旨

昨今の地方教育行政を取り巻く状況は、教育基本法及び学習指導要領の大幅な改正、教育における地方分権の推進、そして教育委員会制度改革など大きな転換期を迎え、その基礎を支える教育委員会の対応力は町村間で格差が生じる結果となっています。子供から高齢者までが、教育や文化、スポーツを楽しみ健康で豊かな暮らしを育むための施策を展開するには、総合教育会議を活用し、町長(町長部局)と教育委員会との連携が求められているといえます。

黒松内町教育委員会では、教育基本法の趣旨を踏まえ、また、令和元年度策定の総合教育大綱に基づき、「生きる力」の基礎となる「確かな学力」、「健やかな体」、「豊かな心」の調和の取れた教育を、学校では「地域とともにある学校」を合い言葉とし、「ふれあい、学びあい、支えあい」の多様な生涯学習活動を学校・家庭・地域の緊密な連携を大切にしながら、具体的な施策・事業を町の第4次総合計画に位置付け取り組んでいるところです。

平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)の一部が改正され、平成20年4月から施行、全ての教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなりました。

そのため、本町としても、同法第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民の皆様に対する説明責任を果たすため、平成20年度から「教育委員会の活動状況等に関する点検・評価」を実施し、報告書に取りまとめ公表しております。

今年度の点検・評価は、「令和2年度教育行政執行方針」に掲げた主要な事務・事業について、PDCA(計画・実施・点検・改善)サイクルの理念に基づき検証いたしました。

今後も、この点検・評価による事業効果等の検証を行うことで、課題や対応方向を明らかにするなど継続的な業務の改善を図りながら、本町ならではの特色ある教育行政の推進に努めてまいりますので、町民の皆様のご御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

令和3年8月

黒松内町教育委員会

II 点検及び評価の概要

1 実施の目的

教育委員会は、首長から独立した立場で、地域の学校教育、社会教育等に関する事務を担当する行政機関として、全ての都道府県及び市町村等に設置されている行政委員会であります。

その特性は、専門的な行政官で構成される事務局を多様な属性を持った複数の委員による合議により、専門家の判断のみによらない、広く地域住民の意向を反映した教育行政を実現するものです。

事務・事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条の規定に基づき、教育委員会が、教育長以下の事務局を含む広い意味での教育に関する事務の管理及び執行状況について点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）を実施することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たすことを主な目的とするものです。

2 点検及び評価の対象

本年度の点検及び評価の対象事業等は、これまでの考えに基づき、令和元年度分の事業実績としました。

その対象範囲は、学校での学習指導・生徒指導に関することや社会教育に関することなど地教行法第23条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、町長の補助執行として行っている事務を含む、町教育委員会が所管する全ての事務としています。

事業のまとめ方については、「令和元年度教育行政執行方針」に基づき、町教育委員会が実施した主な施策・事業等を網羅する形で対象事業を選定しました。

3 点検及び評価の方法

点検及び評価に当たっては、施策・事業の進捗状況を明らかにするとともに、課題等を分析し、今後の方向性を示しています。

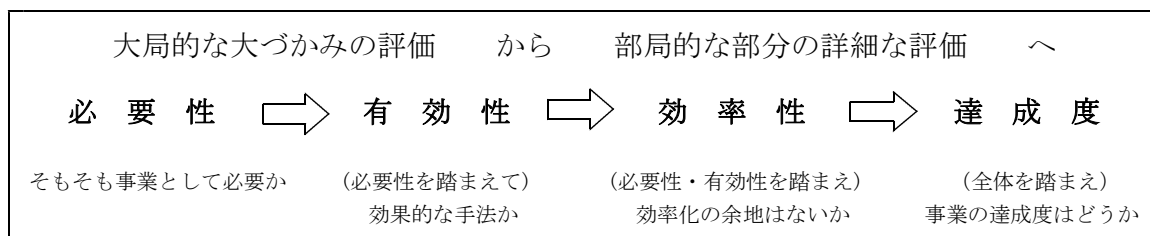
点検及び評価は、各事務事業の概要、点検による成果・課題等を基に、「必要性」、「有効性」、「効率性」及び「達成度」といった分析評価により事務事業の評価を行いました。

次に、その結果を踏まえ、「事業の規模」及び「手法の改善」という二つの観点から、当該事務事業の「今後の取組方向」を判断しました。

なお、「事業の評価」と「今後の方向性」の2段階に分けることにより、「大局から部局へ」、「現在の評価から今後の方向性へ」と、点検及び評価の論理的な流れを分かりやすくしています。

(1) 評価項目について

評価項目	検討の対象	検討の観点
必要性	事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・町民のニーズや社会情勢に適合しているか ・町が事業を行う必要があるか（民間、国・道等が実施すべき事業ではないか）
有効性	事業の目的と手法（事業内容）の関係（手法選択の理念）	<ul style="list-style-type: none"> ・事業目的に照らして効果的な手法か ・成果は、十分に上がっているか（事業目的に照らして効果的な手法であれば成果は上がるはずであり、効果的な手法か否かの客観性を確保するためには、成果を踏まえる必要がある）
効率性	事業のコスト及びコストと成果の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費削減の取り組みは十分か ・人件費削減の取り組み（委託・IT化等を含む）は十分か
達成度	町民理解と目的、目標との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の理解や満足度が得られているか ・目的、目標を達しているか



(2) 評価基準について

評価項目それぞれについて、「高い」、「やや高い」、「やや低い」、「低い」の4段階で評価することとしています。

この4段階の基準については、(1)に示した「検討の観点」（各項目二つずつ）を踏まえ、概ね次のとおりとしました。

評価の段階	概ねの基準
高い	両方の検討の観点について優れている
やや高い	どちらかの検討の観点について優れている
やや低い	どちらかの検討の観点について劣っている
低い	両方の検討の観点について劣っている

(3) 「事業の評価」と「今後の方向性」との関連について

「事業の評価」を踏まえた「今後の方向性」については、予算等の投入したコスト等の物理的規模について判断する「事業規模」の項目と、手法の在り方について判断する「手法の改善」の項目に分割し、それぞれ4段階で判断しました。

「事業規模」、「手法の改善」の各判断項目と、「事業の評価」と各項目との関連及び判断基準については、概ね次のとおりとしました。

判断項目	「事業の評価」の 各項目との関連	判断の段階	概 ね の 基 準
事業規模	主に 必要性・有効性 が関連	拡 充	必要性・有効性とも高い事業であり、今後、規模を拡充し重点的に取り組むべきである。
		維 持	必要性がやや高く、有効性も低くない事業で有り、現在の規模を維持するべきである。
		縮 小	必要性が比較的低い、又は有効性が低い事業であり、規模を縮小すべきである。
		休 廃 止	必要性が低い、又は必要性がやや低く、有効性が低い事業であり、休廃止すべきである。
手法の改善	主に 有効性・効率性 が関連	維 持	有効性・効率性とも高い事業であり、現在の手法を維持すべきである。
		軽微な改善	有効性がやや高く、効率性も低くない事業であり、概ね現在の手法で問題はないが、軽微な改善を行うべきである。
		抜本的改善	有効性がやや低い、又は効率性が低い事業であり、手法の抜本的な改善を行うべきである。
		休 廃 止	有効性が低い、又は有効性がやや低く、効率性が低い事業であり、休廃止すべきである。

Ⅲ 点検及び評価に関する実施方針

教育関係事務・事業の点検及び評価に関する実施方針

平成21年4月23日教育委員会決定

改正 平成26年6月10日

1 趣旨

黒松内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する規則（平成21年教育委員会規則第4号）第4条の規定に基づき、この実施方針を定める。

2 基本的な方針

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）が改正され、教育委員会が所管している事務の執行状況等について、自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することとされた。

そこで、当教育委員会としては、P・D・C・Aサイクル（*）の手法を用いた事務の点検及び評価を行い、今後の施策展開の基本的な考え方や方向性などを明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資する。

3 点検及び評価の対象

点検及び評価の対象は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 教育委員会の活動状況に関する現状と課題
- (2) 教育行政執行方針に掲げる各種施策の実施及び達成の状況
- (3) その他点検及び評価を行うことが必要と認められる事務の実施及び達成の状況

4 点検及び評価の時期

点検及び評価は、毎年、前年度に実施した施策の達成状況等を分析するものとする。

5 点検及び評価の実施方法

- (1) 教育行政執行方針に掲げる各種施策及び主要な事業について、点検・評価調書（別記様式1）を作成する。
- (2) 教育長は、担当者が作成した点検・評価調書を基に、点検及び評価に関する報告書をまとめ、教育委員会の会議に付する。
- (3) 点検及び評価の結果については、重点施策の展開、予算編成、事務事業の見直し等の事務改善など、教育行政のあらゆる分野に反映させるものとする。
- (4) 点検及び評価を行うにあたっては、客観性を確保するため、教育に関する学識経験を有する者の意見を聞くことができるものとする。

6 点検及び評価に関する情報の公表

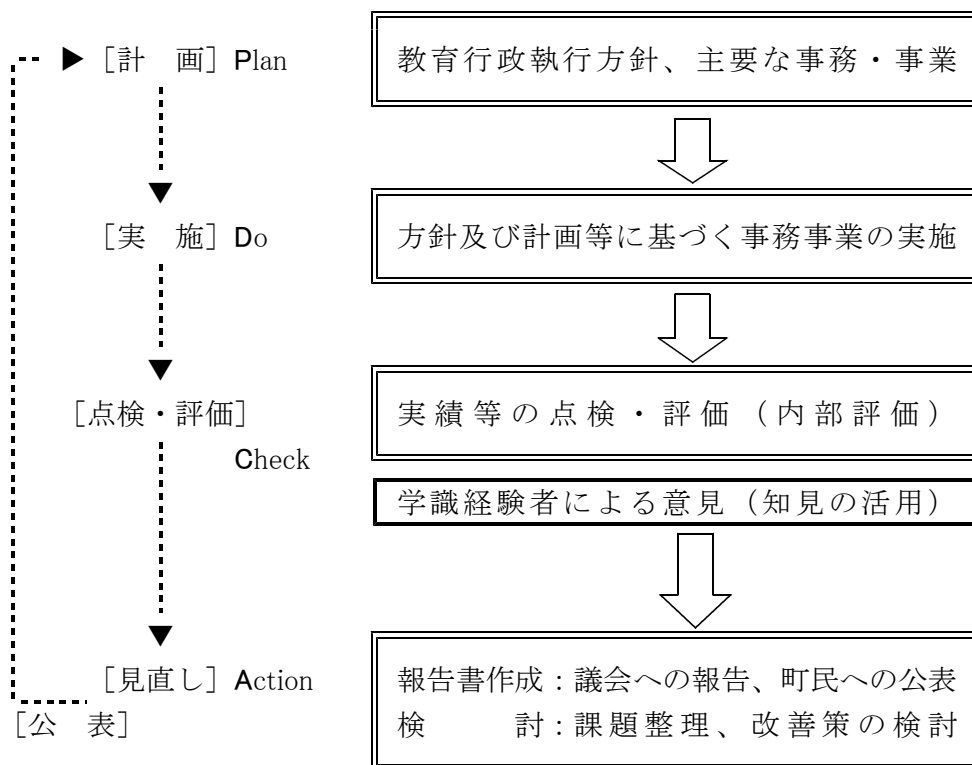
点検及び評価結果に関する情報については、議会への報告（6月又は9月）のほか、町民が容易に入手できる方法で公表するものとする。

* P・D・C・A サイクルとは？

Plan（計画）、Do（実施、実行）、Check（点検、評価）、Action（改善）の4段階のプロセスを順に実施する。

最後のActionを次のPlanに結び付けつつ、このプロセスを繰り返し実施することで、継続的な業務改善を推進していくためのマネジメント手法のことをいう。

* 点検・評価の流れ



別記様式1

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)				項目番号	
事業費		千円	担当		
事務事業の概要	目的				
	実績				

点 検 ・ 評 価	成果					
	課題 (問題)					
	評 価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		効率性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今 後 の 方 向 性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の 取組方向 (改善点等)				

そ の 他	
-------------	--

第1章 教育委員会の活動状況

第1章のポイント

教育委員会の会議の開催や審議内容、規則・要綱の制定や改正の状況、教育委員会が行った主な活動状況、教育関係者等に対する表彰などを整理しています。

1 教育委員会等の会議の開催・審議状況

黒松内町教育委員会の会議は、黒松内町教育委員会会議規則（昭和31年教育委員会規則第1号）第4条の規定に基づき招集し、開催しています。

この会議において、教育長及び4名の黒松内町教育委員会教育委員が教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則・要綱など、様々な議題について審議をしています。

開催期日	付議案件等
2. 4. 23 (令和2年第3回)	(報告) <ul style="list-style-type: none"> ・ 育児休業の承認について ・ 黒松内町立学校就学指定校の変更許可について ・ 令和2年度黒松内町立小中学校の主任等の命課について (議案) <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒松内町生涯学習委員の委嘱について ・ 黒松内町立学校における働き方改革行動計画の改正について ・ 黒松内町子ども・子育て会議委員の委嘱について ・ 黒松内町青少年問題協議会委員の委嘱について ・ 黒松内町文化財保護委員の委嘱について ・ 修学旅行の引率業務等に従事する黒松内町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部を改正する訓令の制定について ・ 黒松内町立学校管理規則の一部を改正する規則の制定について ・ 令和2年度要保護・準要保護世帯の認定について
2. 6. 1 (令和2年第4回)	(報告) <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症対策のための一斉臨時休業期間等における町立学校職員の在宅勤務実施要領の制定について ・ 令和2年度黒松内町一般会計補正予算（第5回）について（専決処分） ・ 学校職員の事故（交通違反）報告について ・ 育児休業期間延長の承認について ・ 令和2年度第4地区教科書採択教育委員会協議会代表委員及び代理委員の選出について ・ 黒松内町子ども・子育て支援法施行細則の制定について ・ 黒松内町保育の利用に関する規則の制定について ・ 黒松内町保育の実施に関する規則を廃止する規則の制定について ・ 平成31年度黒松内町教育委員会における人事行政の運営等の状況について (議案) <ul style="list-style-type: none"> ・ 黒松内町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について ・ 黒松内町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について ・ 黒松内町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について ・ 令和2年度黒松内町一般会計補正予算（第6回）について

開催期日	付 議 案 件 等
<p>2. 8. 28 (令和2年第5回)</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村立学校職員の令和2年6月期における勤勉手当の成績区分の内申について ・黒松内地区・白井川地区学校運営協議会委員の委嘱について ・令和2年度黒松内町一般会計補正予算(第7回)について ・黒松内町要保護児童対策地域協議会設置要綱の一部改正について ・産後休暇の承認について ・育児休暇の承認について ・令和2年度黒松内町一般会計補正予算(第8回)について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から使用する中学校用教科書図書の採択について ・令和3年度から使用する一般図書の採択について ・令和元年度黒松内町教育委員会の活動状況等に関する点検・評価について ・黒松内町就学援助事務実施要綱の一部を改正する訓令の制定について ・黒松内町特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する訓令の制定について ・令和2年度黒松内町一般会計補正予算(第9回)について
<p>2. 12. 1 (令和2年第6回)</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産前休暇の承認について ・教育委員会委員の任命について ・黒松内町議会総務経済常任委員会所管事務の調査報告について ・市町村立学校職員の令和2年12月期における勤勉手当の成績区分の内申について ・学校職員の採用について ・黒松内町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例の制定について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度黒松内町一般会計補正予算(第13回)について
<p>2. 12. 22 (令和2年第7回)</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産後休暇の承認について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度教育行政執行方針の骨子(案)について
<p>3. 2. 8 (令和3年第1回)</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村立学校職員の令和3年1月1日付け昇給における成績区分の内申について ・育児休業の承認について ・令和2年度黒松内町一般会計補正予算(第14回)について <p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒松内町立学校就学指定校の変更許可について
<p>3. 3. 2 (令和3年第2回)</p>	<p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産後休暇の承認について

開催期日	付 議 案 件 等
	(議案) ・令和2年度黒松内町一般会計補正予算(第15回)について ・令和3年度教育行政執行方針について ・令和3年度黒松内町一般会計教育関係予算について ・令和3年度黒松内町立小中学校校長・教頭の人事異動について (協議) ・令和2年度黒松内町立小中学校の卒業式について
3. 3. 25 (令和3年第3回)	(報告) ・育児休業の承認について ・黒松内町教育委員会事務局職員の退職について ・令和3年度黒松内町立小中学校教職員の人事異動について ・令和3年度学校職員の採用について (議案) ・令和3年度黒松内町教育委員会事務局職員の人事異動について (協議) ・令和3年度黒松内町立小中学校の卒業式について

黒松内町総合教育会議は、町長と教育委員会の相互連携を図り、本町の教育行政の推進に資するために平成27年度に設置され、黒松内町総合教育会議設置要綱第4条の規定に基づき招集し、開催しています。

開催期日	協 議 ・ 調 整 事 件
2. 8. 28 (第1回)	・新型コロナウイルス感染症に係る対応について ・当面する黒松内町教育課題について
2. 12. 22 (第2回)	・令和3年度教育関連予算について ・当面する黒松内町教育課題について

2 規則・要綱等の制定及び改正等

令和2年度中に制定・改正等された教育委員会規則の件数は4件、教育委員会訓令の件数は5件となっています。

(1) 教育委員会規則

番 号	題 名	公布年月日	施行年月日
(2年) 第 6 号	・黒松内町立学校管理規則の一部を改正する規則	R 2. 4. 23	R 2. 4. 23
第 7 号	・黒松内町子ども・子育て支援法施行細則の制定	R 2. 5. 27	R 2. 5. 27
第 8 号	・黒松内町保育の利用に関する規則の制定	R 2. 5. 27	R 2. 5. 27
第 9 号	・黒松内町保育の実施に関する規則を廃止する規則の制定	R 2. 5. 27	R 2. 5. 27

(2) 教育委員会訓令

番 号	題 名	公布年月日	施行年月日
(2年) 第 5 号	・修学旅行の引率業務等に従事する黒松内町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する要領の一部を改正する訓令	R 2. 4. 23	R 2. 4. 1
第 6 号	・新型コロナウイルス感染症対策のための一斉臨時休業期間等における町立学校職員の在宅勤務実施要領の制定に関する訓令	R 2. 5. 1	R 2. 5. 7
第 7 号	・黒松内町要保護児童対策地域協議会設置要綱の一部を改正する訓令	R 2. 7. 21	R 2. 8. 1
第 8 号	・黒松内町就学援助事務実施要綱の一部を改正する訓令	R 2. 8. 28	R 2. 8. 28
第 9 号	・黒松内町特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部を改正する訓令	R 2. 8. 28	R 2. 8. 28

3 教育委員の活動状況

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、町立小中学校の入学式・卒業式への参列、教育委員研修会への参加などの活動をしています。

【主な活動状況】

日 付	活 動 内 容	委 員 名
4月 2日 (木)	令和2年度教職員辞令交付式	池田委員・岡久委員 松田委員
8月15日 (土)	黒松内町成人式	池田委員・岡久委員
2月 8日 (月)	教育委員会学校訪問	池田委員・岡久委員 金石委員・松田委員
3月15日 (月)	黒松内中学校卒業式	池田委員
	白井川中学校卒業式	金石委員
3月19日 (金)	黒松内小学校卒業式	松田委員
3月24日 (水)	白井川小学校卒業式	岡久委員

注1：上記のほか、各小中学校の学芸会・学校祭や授業参観等へも出席。

注2：教育委員会会議及び総合教育会議を除く。

注3：各校の令和2年度入学式は告辞を会場掲示とし、令和2年度文化・スポーツ表彰授与式は表彰者及び推薦団体のみの出席としたため、教育委員の出席はない。

4 教育功労者等の表彰

教育委員会では、黒松内町教育功労者表彰規則（平成2年教育委員会規則第3号）を制定し、本町の教育、文化、スポーツ等に顕著な功績があった個人又は団体を表彰しています。

令和2年度は、教育功労者表彰者はおりませんでした。

【黒松内町教育功労者表彰規則抜粋】

（表彰）

第2条 表彰は、次の各号に該当すると認められる個人又は団体をこの規則に定めるところにより表彰する。

- （1） 町の教育、文化、スポーツ等の振興に貢献した者
- （2） 町の教育機関に多額の金品を寄贈した者
- （3） 第1号に係る団体の長として連続10年以上その職にあった者

黒松内町教育功労者表彰一覧

NO. 1

【平成3年度被表彰者】				【平成10年度被表彰者】			
氏名	職	該当条項		氏名	職	該当条項	
谷口英夫	黒小教諭	第2条第1項		坂井弘治	黒中校長	第2条第1項	
				板坂吉浩	中中教諭	第2条第1項	
【平成5年度被表彰者】				【平成13年度被表彰者】			
氏名	職	該当条項		氏名	職	該当条項	
高橋恭雄	無職	第2条第2項		国寄徳也	無職	第2条第2項	
荻野正	黒中教諭	第2条第1項		山崎徹也	黒中教諭	第2条第1項	
石村賢三	黒小教諭	第2条第1項		黒松内中学校	—	第2条第1項	
				中ノ川小中学校	—	第2条第1項	
【平成6年度被表彰者】				【平成14年度被表彰者】			
氏名	職	該当条項		氏名	職	該当条項	
奈良正幸	公務員	第2条第1項		加藤美佐子	黒小校長	第2条第1項	
【平成9年度被表彰者】				新井融	白小教頭	第2条第1項	
氏名	職	該当条項		芥藤裕	無職	第2条第1項	
中村勝美	熱小校長	第2条第1項					

【平成15年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
二階堂 則 雄	黒中校長	第2条第1項

【平成16年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
横 澤 善 秋	中小中校長	第2条第1項
西 嶋 俊 朗	白中校長	第2条第1項
伊 藤 篤	団体職員	第2条第1項
佐 藤 晴 美	団体職員	第2条第1項

【平成17年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
太 田 茂	黒小校長	第2条第1項
横 山 光	中中教諭	第2条第1項
長 谷 通 史	歯科診療所長	第2条第1項

【平成18年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
故 長谷川幸男	白小教諭	第2条第1項
山 本 光 廣	白小校長	第2条第1項
上 平 敏 和	中小中校長	第2条第1項
高 橋 護 一	無 職	第2条第1項

【平成19年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
榎 井 孝	黒中校長	第2条第1項

【平成20年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
南後志法人会黒松内地区会	—	第2条第2項
黒松内建設協会	—	第2条第2項
古 谷 智佐子	黒小校長	第2条第1項
日 村 一	白中校長	第2条第1項
高 野 秀 樹	黒中教頭	第2条第1項

【平成21年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
檜 伊佐夫	白小校長	第2条第1項

【平成22年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
長谷川 誠	黒中校長	第2条第1項
佐 竹 ひろみ	黒中教諭	第2条第1項
織 川 富 治	無 職	第2条第1項

【平成23年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
丸 口 弘 之	黒中教諭	第2条第1項
黒松内町ライオンズクラブ	—	第2条第2項

【平成25年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
小 川 末 子	無 職	第2条第3項
故 菅原 久光	会社役員	第2条第3項

【平成27年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
藤 原 正	無 職	第2条第1項
我 妻 一 子	自 営 業	第2条第1項

【平成28年度被表彰者】

氏名	職	該当条項
富 田 重 義	農 業	第2条第1項
工 藤 公 宣	会 社 員	第2条第1項

第2章 令和2年度事務・事業の点検及び評価

第2章のポイント

「令和2年度教育行政執行方針」に沿った、8項目22の事務・事業について、点検及び評価を行っています。

具体的には、それぞれの取組における事業効果や課題などを客観的に分析したうえで、今後の取組方法等を整理しており、執行方針に関する最終的な評価を行ったものです。

1 学校と地域、保護者、関係団体が一体となりまち全体で子供たちを守り育みます

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		子供の未来を育む子育て支援 保育・放課後児童対策事業		項目番号	1-(1)-①
事業費		105,167千円	担当	子育て支援	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供の健やかに成長できる環境づくりと多様化する子育てニーズに対応するため、黒松内保育園等との連携を強化し、教育委員会が担当課であるメリットとして幼児期から学齢期までの連続性のある質の高い子育て対策を行う。 ○ 子育て世代の出産及び保育等における経済面での支援を行い、安心して子育てできる環境づくりを図る。 			
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教育・保育給付費 (利用者負担軽減分も含む) ○ 児童クラブ (24名加入 (平均出席16名))・児童館運営 ○ 出産祝い金 9件、出産祝い金特別給付金 8件 ○ 一時預かりサービス のべ28名利用 ○ 児童館空調機器購入 3台 (新型コロナウイルス感染症対策) 			

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育園利用者負担の軽減や、児童クラブ活動等の取組がされ、共働き世帯の子育て環境の安全・安心等につながっている。 ○ 児童福祉及び子育て支援業務が、教育委員会に移行したことにより、今まで個別に対応していた取組が少しずつではあるが、学校教育及び社会教育と効率的・有機的に行うことができた。 				
	課題 (問題)	○ 各子育て支援対策の充実は必要であるが、家庭における教育力を高めることも重要であり、社会教育活動と連携し、取り組む必要がある。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 子育て支援施策の充実のため、また、少子化傾向が顕著であることから、子ども・子育て会議や関係団体等からの保護者から意見、要望を聞きとりし、定期的に検証を行う必要がある。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		子供の未来を育む子育て支援 子ども子育て相談支援事業	項目番号	1-(1)-②
事業費		10,234千円	担当者	子育て支援
事務事業の概要	目的	○ 地域全体で出産や子育て等を支援する基盤の形成を図り、安心して妊娠・出産・子育てができる環境整備を、保健福祉課、保育園、学校、関係機関等とともに保健師や栄養士等によるきめ細やかな支援を実施する。		
	実績	○ 子育てサービス利用者支援事業 ○ 地域子育て支援センター運営費補助事業（新型コロナウイルス感染症対策含む）		

点検・評価	成果	○ 子育て家庭等に対する支援活動のため、子育てサービス利用者支援事業を開始し、育児不安に対する相談指導や地域子育て支援センターへの支援を継続して行い、子育ての環境づくりができた。				
	課題 (問題)	○ 子育て支援に係る施策や体制づくりの環境整備がされ、パンフレット等を作成し、利用者の増加を図る必要がある。 ○ 子育てサービス利用者支援事業と地域子育て支援センターの共同した取り組みや情報交換の機会がないことから、その場づくりを行う必要がある。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 軽微な改善 <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 支援が必要である学齢期・学齢期前の児童生徒に対し、学校や保育園等との情報交換を通じて、つながりある体制づくりをし、学校における子供の困り感の軽減、合理的配慮に努めるとともに、保護者とともに取り組む支援づくりをめざす。 ○ 令和2年度から黒松内保育園と黒松内小学校が保小連携をし、学びの連携を進める体制づくりが開始され、今後は、白井川小学校との連携も望まれる。

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	子供の未来を育む子育て支援 青少年教育の充実事業 (元気キッズ、放課後子ども教室等)	項目番号	1-(1)-③
事業費	3,720千円	担当	社会教育・子育て支援
事務事業の概要	目的	○ 子供たちの「生きる力」を育むために、学校・家庭・地域などが一体となり、地域の教育資源を積極的に活用した豊かな体験活動の充実を図る。	
	実績	○ 黒松内町元気キッズクラブ運営委員会事業 (わんぱく探検団、子育て支援講座、親子体験講座、子育てサークル支援、読書推進活動等) ○ 放課後子ども教室(黒松内地区25名、白井川地区8名) ○ 森のようちえん	

点 検 ・ 評 価	成 果	○ 地域の学習施設や体育施設、自然資源を積極的に活用した自然・生活・社会体験活動などの機会を提供したことにより、幼児期からの子供たちの「生きる力」が育まれた。 ○ 学校・家庭・地域などの連携と理解により、地域社会が一体となった子供の健全育成が行われた。				
	課 題 (問 題)	○ 豊かな体験学習を促進するための指導者・スタッフが重要な役割を担うことから、指導者等の確保と養成が必要である。 ○ 「スマホ」などの普及によるメディア対策とともに、人間関係の形成の視点も含めた取組など子育て支援、家庭教育の継続した取組が必要である。				
	評 価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い
効率性		<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高 い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い	

今 後 の 方 向 性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 維 持 <input type="checkbox"/> 縮 小 <input type="checkbox"/> 休 廃 止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維 持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽 微 な 改 善 <input type="checkbox"/> 抜 本 的 改 善 <input type="checkbox"/> 休 廃 止
	今後の取組方向性 (改善点等)	○ 学校・家庭・地域等が連携した豊かな体験活動、メディア教育等に取り組み、子供の参加者を増やすためには、保護者の理解や参加が重要であり、そのためには家庭教育の充実を学校、関係者と連携する必要がある。また、家庭における教育の現状・課題を明確にし、事業に展開する必要がある。 ○ 子供向けの事業を進めるためにも、ジュニアリーダーを育成する中学生を対象とした研修・育成プログラムが必要である。 ○ 加入児童の減少及びスタッフ不足等により、放課後子ども教室と児童クラブの一体化に向けた検討をする。

そ の 他	
-------	--

2 幼児から学齢まで切れ目のない一貫した教育を展開し、未来を担う子供たちを育みます

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	「確かな学力」と「生きる力」の育成 全国学力・学習状況調査		項目番号	2-(1)-①
事業費	一 円	担当者	学校教育	
事務事業の概要	目的	○ 各町村教育委員会、学校等において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、その取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。 ○ 各学校が、児童生徒個々の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善に役立てる。		
	実績	○ 実施期日 令和 2年4月16日(木) 新型コロナウイルス感染症の予防のため延期 ○ 対象人員 小学6年生、中学3年生		

点検・評価	成果	※実施した場合の成果 ○ 調査結果から児童生徒個々の基礎学力・応用力、学習状況、また、学校における教育及び教育施策の成果と課題の把握ができた。 ○ 各学校において、調査結果等を分析した上で、指導計画の改善と修正を実施し、児童生徒の実態に即したきめ細かな指導など、具体的な学習の手立てや指導方法について実践することができた。				
	課題 (問題)	○ 調査年度による学力の差が見られることから、児童生徒の実態に即した学校改善プランの修正を適宜実施し、実効性のある具体的な取組を推進していく必要がある。 ○ 児童生徒個々の学力の差が大きく、家庭での学習時間の短さなどが見られることから、家庭と連携した学習習慣、生活リズムの改善が求められる。				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 維 持 <input type="checkbox"/> 縮 小 <input type="checkbox"/> 休 廃 止
	手法の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 維 持 <input type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休 廃 止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 各学校が児童生徒の実態に即し、習熟度別指導等のより効果的な学習活動が実践できるよう指導・助言に努め、小中学校時の学習の理解度等について、小中学校間・先生間の連携が強く求められる。 ○ 家庭や地域と連携しながら学習習慣を含む生活リズムの確立、児童生徒の自己有用感の高揚等を図る必要がある。

そ の 他	
-------	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	「確かな学力」と「生きる力」の育成 学習支援員（特別支援教育補助員）の配置		項目番号	2-(1)-②
事業費	9,067千円	担当者	学校教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童生徒の基礎学力の定着を図るため、学力実態が多様な学校に対し少人数指導等を実施できるよう、また、自閉性障害等により特別な配慮を必要とする児童生徒に対し、通常学級及び特別支援学級における授業での学習支援を行うため、学習支援員を配置する。 ○ 学校生活において介助（支援）を必要とする児童生徒に対し、特別支援教育補助員を配置して、特別支援教育体制の充実を図る。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援員の派遣 黒松内小学校 4名（パート） 黒松内中学校 1名 ○ 特別支援教育補助員の派遣 黒松内中学校 1名（パート） 		

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習障がい等により教育上特別な配慮・支援を要する児童生徒、また、学校生活において介助（支援）を必要とする児童生徒に対し、きめ細やかな個別サポート（指導・支援・介助）を行うことで、通常学級及び特別支援学級における教育体制の充実が図られた。 ○ 放課後や長期休業中に補充的な学習サポートを行うことができた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習支援員の確実な採用と学校への継続的な配置が必要である。 ○ 学習障がい等により特別な支援・配慮を必要とする児童生徒が増加傾向にあり、きめ細やかな支援を続けていく必要がある。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 軽微な改善 <input checked="" type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 支援等を必要とする児童生徒の状況を的確に理解し、各学校における学習支援員・補助員の配置及び担任教員と支援内容を整理するなど、効果的に学びに結びつくよう教育委員会でも実情を把握する必要がある。 ○ 学校から保護者に対して、児童生徒の学習・生活面の状況を伝え、共通理解を高め指導につなげるよう、さらに機会づくりに努める。

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	「確かな学力」と「生きる力」の育成 学校ICT環境整備事業		項目番号	2-(1)-③
事業費	46,199千円	担当者	学校教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領の「教師がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に加え、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」に定められた取組をし、学習効果を期待する授業展開を図るため、学校ICT環境を整備する。 ○ ICT環境整備及び情報手段の特性を理解し、授業における指導力を高める方法等を研究するため、教職員と教育委員会事務局で構成する検討部会を設置する。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT環境整備 授業用・児童生徒用パソコン(リース) 28台、タブレットパソコン(リース) 60台、校務用パソコン(リース) 47台 ○ GIGAスクール 児童生徒用パソコン 163台、教員用パソコン 46台、校内LAN整備、電源装置 4校等 ○ 町立学校メディア教育整備検討部会 1回視察 		

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度からのICT環境整備計画に基づき授業用パソコン、生徒用パソコン、教師用パソコン及び関連備品を整備できた。 ○ 国のGIGAスクール構想に基づき、児童生徒1人1台のパソコン配置及び校内のLAN環境等を整備できた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教職員の授業における活用指導力の向上につながる取組を、校内等の研修を通じて養うことが重要である。 ○ 1人1台体制が整備され、家庭等への持ち出しに係るルールを策定し、臨時休業中の学びの保障の体制を進める必要がある。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ パソコン1人1台体制が整備され、授業及び家庭での使用時間が増加するため、体・健康面への影響への配慮に努める。

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		「確かな学力」と「生きる力」の育成 町営塾・適応指導教室運営事業		項目番号	2-(1)-④
事業費		4,204千円	担当者	総合教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年3月策定の総合戦略内の「学習支援のための町営塾運営事業」であり、進学塾や家庭教師といった学校校外の教育サービスがなく、子育て世代の「子供の将来の教育についての不安」を少しでも解消するため、地域の教育力を活し、町営塾を運営する。 ○ 不登校児童生徒等の学び・居場所づくりの場を、町民センター内に設置する。 			
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学びのコーディネーター 1名、適応指導教室補助員2名 ○ 町営塾 2期制 (のべ数値) 開校日 17日間、大学生ボランティア登録者 20名、中学生登録者 11名 (のべ115名参加) ○ 適応指導教室 登録 中学生4名 (のべ235日通級) 			

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道教育大学の協力を受け、大学生による学習支援体制を構築でき、コロナ禍のため、Zoomを活用した学習の場として、また、近い年齢の学生との交流により、学習意欲の向上につながった。 ○ 不登校児童生徒の学びの場だけではなく、規則的な生活リズムにもつながった。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登録した中学生の学習面では差があり、基礎的な学力の不足や学び方(自習)が分からない生徒がいるため、学力や目的別のグループ分け等が必要である。ふるさと学習が実施できず、他の学習も取り組みし、充実を図る。 ○ 適応指導教室には、心の疾病を持つ児童生徒があり、医療や保健との連携・サポートが必要である。 				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 現在、東京理科大学長万部キャンパスの学部体制が見直しされることから、北海道教育大学との連携するとともに、中学校で行われている放課後学習との関連性も踏まえ、学習内容の充実を図る。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		「確かな学力」と「生きる力」の育成 国際理解教育等推進事業		項目番号	2-(1)-⑤
事業費		11,319千円	担当者	社会教育・学校教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の発音や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養い、国際性豊かな人材育成を図る。 ○ 国際交流協力員等との交流を通し、国際理解教育や外国の生活文化への理解を深める。 ○ 新学習指導要領に基づく、令和2年度からの小学校外国語教育の充実のため、ALT（委託業務）にて配置する。 			
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 英語教室(小・中学生、大人)の開催(小・中学生46名、大人8名登録) ○ 各学校における外国語授業でのTT指導等 ○ 保育園への外国語体験 			

点検	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語活動の充実のため、各学校の外国語の授業に派遣することにより、生の英語に触れる機会を通じて、コミュニケーション能力の育成、教員の指導方法の支援を図ることができた。 ○ 国際文化を理解・尊重し、国際的な知識や感覚を養い、国際性豊かな人材育成の一役を担うことができた。 				
	課題 (問題)	○ 新学習指導要領に基づく授業の充実を図るため、担当教員との連携を密にする必要がある。				
評価	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		効率性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		達成度	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ より充実した外国語の授業が展開されるよう、各学校の担当教員との連携を密にし、委託会社の協力のもと研修会を開催するなどの指導案づくりをサポートする。 ○ 各教室参加者が、外国の方に英語を使用する機会を設け、習得したものを理解し、楽しめる意欲につなげていくことが必要である。 			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	「確かな学力」と「生きる力」の育成 食育振興事業		項目番号	2-(1)-⑥
事業費	7,691千円	担当者	学校教育	
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭における食習慣の乱れが子供たちの成長阻害要因の一つとして指摘されており、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける。 ○ 学校給食に地場産製品・野菜などをの地産地消を取り入れるとともに、学校給食費補助金により経済面の支援をする。 		
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校給食の食材として、トワ・ヴェール製品、トワ・ヴェールⅡのパン、地場産野菜等を提供（地産地消） ○ セレクト給食（各1回）、食育の日（毎月19日）の実施 ○ 学校栄養教諭による「食」に関する指導・実践、「給食だより」の発行 ○ 学校給食費補助金の支給 児童生徒121名（小中学校4校、分校） 		

点検・評価	効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校栄養教諭による「食」に関する指導、実践を行うことにより、食に対する正しい知識・重要性への理解が深まった。 ○ 安全で安心な地場産野菜、トワ・ヴェール製品、トワ・ヴェールⅡのパンの学校給食への提供により、地産地消の推進が図られた。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地場産野菜等の学校給食への提供とともに、児童生徒と生産者との関わる機会をつくり、生産の場や生産に係る大変さなどの理解を深める取り組みが少ないため、学校等との検討を図る。 ○ 地場産野菜の供給の安定化のため、生産者、商店や関係機関等との情報交換を継続する必要がある。 				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食習慣の改善を図るため、家庭・学校・地域・行政などが相互に補完・協力しながら、町の食育推進計画と連動して、取り組む必要がある。 ○ 残食量の減につながる指導・工夫を行う必要がある。 ○ 配食・喫食時の新型コロナウイルス感染症予防の対応を継続する。 			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	「確かな学力」と「生きる力」の育成 学校給食センター施設等整備事業		項目番号	2-(1)-⑦
事業費	31,357千円	担当者	学校教育	
事務事業の概要	目的	○ 建築年数の経過とともに腐食及び劣化した給食センター施設の設備や備品の改修・更新等を行うことにより、安全・安心な学校給食の提供に努める。		
	実績	○ 施設・備品修繕（ボイラー修繕、洗浄機修繕等） ○ 備品購入（配送車1台、配送用コンテナ、食缶等） ○ 実施設計業務委託 一式		

点検・評価	効果	○ 施設小破修繕、備品等修繕、備品を購入したことにより、施設及び衛生面等での適切な管理が行われ、安全・安心な学校給食を児童生徒へ提供することができた。 ○ 施設改築事業のための実施設計を策定することができた。				
	課題 (問題)	○ 学校給食センターは、建築から約39年が経過し老朽化が進んでおり、現在の学校給食衛生管理基準を満たしていない項目があることから、改築事業のための実施設計を終え、令和3年6月工事着手に向けて計画的な事務を進める。 ○ 改築までの間、食品衛生管理指導の実施における指摘事項の改善に努め、併せて、年間複数回の異物混入があることから、職員の衛生意識を高める必要がある。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 令和4年度工事完成後の新調理工程の策定、調理業務の委託化の検討等を円滑に進める。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	「確かな学力」と「生きる力」の育成 学校施設整備事業		項目番号	2-(1)-⑧
事業費	16,222千円	担当者	総務企画	
事務事業の概要	目的	○ 建築年数の経過とともに腐食・劣化した学校施設等の修繕を計画的に行い、学校施設の教育環境の向上を図る。 ○ 教職員住宅の居住環境の向上を図る。		
	実績	○ 各小中学校施設修繕・工事 黒松内小学校（手洗い場増設・温水器設置工事、特別支援学級増設）等 ○ スクールバス更新 1台		

点 検 ・ 評 価	成果	○ 学校施設等の修繕などを行うことにより、学校施設・教育環境の向上が図られた。 ○ 老朽化したスクールバスを更新し、安定的な運行の体制づくりが図られた。				
	課題 (問題)	○ 今後、学校施設、教職員住宅等の老朽化に伴い、計画的な修繕・整備計画等が必要がある。 ○ 学校の適正・快適な使用のための学校内での管理手法の引継ぎが充分されていないことがあり、教育委員会で適時、確認する必要がある。				
	評 価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今 後 の 方 向 性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 老朽化に伴う学校施設（スクールバス含む）及び教職員住宅の計画的な修繕、メンテナンス、購入等を実施する必要がある。 ○ 近年では、老朽化した住宅には入居せず、単身用賃貸公営住宅や民間賃貸住宅を希望する教職員が多く、空き住宅が見られるため、これら動向に留意し、住宅修繕をする必要がある。 ○ 黒松内小学校から、夏季の高温化のため、空調設備（送風機等）の設置要望があり、風通しの改善も含めて対応策を検討する。

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	地域と共にある教育の推進 コミュニティ・スクール設置事業	項目番号	2-(2)-① 5
事業費	163千円	担当者	総合教育
事務事業の概要	目的	○ 「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」に転換し、学校と地域が連携・協働し、地域でどのような子供を育てるかを目標に掲げ、持続的な地域の取組となるよう学校運営協議会を、令和2年度に全校に設置する。	
	実績	○ 黒松内地区学校運営協議会 会議3回、視察研修(合同)1回 ○ 白井川地区学校運営協議会 会議4回、視察研修(合同)1回 ○ 黒松内町学校運営協議会連絡会 総会1回	

点検・評価	成果	○ 平成30年度のモデル校設置を参考に、地域とともにある学校を目指し、全校を2つの地区学校運営協議会を設置し、学校と地域が連携・協働する基盤づくりができた。 ○ 各学校の自己評価及び学校関係者評価を実施し、保護者等に公表することで説明責任が果たされ、より信頼される学校づくりを進めることができた。				
	課題 (問題)	○ 学校運営協議会において、地域で育む子供像をめざした課題や取り組み評価等を深める必要がある。 ○ 教職員の本制度及び地域の理解をより深め、また、教育委員会の担当職員のスキルアップが必要である。				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 学校運営協議会事務局を学校が取り組むため、教育委員会内に活動を支援・助言するコーディネーター業務を担う体制づくりが求められる。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	地域と共にある教育の推進 地域学校協働本部(総合的な学習)運営事業	項目番号	2-(2)-② 5
事業費	430千円	担当者	総合教育
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。 ○ 環境プログラムを実践することで、各学校で取り組まれている環境教育(学校農園を含む)を、系統的で継続的に学習できる。 ○ 地域学校協働本部では、学校と地域・町民を結び付け、地域学校協働活動を行うことで、地域全体で子供を育む環境を構築する。 	
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 黒松内小学校：ブナ里学習(森・川・土と暮らし・大地と文化、ブナ発表会、学校農園等)、消毒ボランティア ○ 白井川小学校：ブナ里学習(森の探検、黒松内を知る、学校農園・花壇)、スキー授業支援 ○ 黒松内中学校：ブナの里セミナー(自然・職場体験、地域の魅力、学校農園等)、消毒ボランティア ○ 白井川中学校：地域探究(郷土・職業・和太鼓演奏) ○ 地域学校協働本部の設置 構成団体 10団体 	

点検・評価	成果	○ 各学校がそれぞれの特色を生かした、「実践・活動テーマ」に基づき、子供たちが自ら学び、自ら考える力や問題を解決する資質や能力など、「思考力」「判断力」「表現力」などの向上が図られた。				
	課題(問題)	○ 総合的な学習だけではなく、各教科との関連性を図りながら、ブナセンターや地域の職場・町民との効果的な関わり等を展開する必要がある。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		効率性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向(改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校から中学校のつながりを確認し、指導体系を構築するとともに、中学校では「学習内に自ら考える」が取り入れられているかを検証する。 ○ 地域学校協働活動の町民周知のほか、取り組み上の課題を学校及び学校運営協議会に示し、より充実し円滑な活動づくりにつなげる。

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	負託に応える学校づくり 教職員の資質能力の向上事業	項目番号	2-(3)-① 5	
事業費	581千円	担当者	総務企画・学校教育	
事務事業の概要	目的	○ 学習指導要領の改訂、教育の情報化、保護者とのつながり、生活様式の変化がもたらす問題など、様々な教育課題が山積している現状において、研究・研修事業への参加により、それらの解決や教職員の指導力向上を図る。 ○ 各学校の教育目標達成に向け精力的・積極的に研修活動を推進し、学校教育に寄与するための能力開発と自己の資質向上を図る。		
	実績	○ 研修センター等の各種研修会・研究会への積極的な参加 ○ 学校の研究及び教育活動上の課題解決に資する機会として、教育局指導主事を招いての研究授業等の開催 ○ 教職員スキルアップ研修会の開催 1回 ○ 教職員研修会の開催		
点検・評価	成果	○ 各種研修会・研究会、推進校などに積極的に参加することにより、その成果や課題の環流を相互に図りながら、個々の資質の向上と学校の研究・研修の充実が図られた。		
	課題 (問題)	○ 教職員の授業力や生徒指導力の資質・能力の更なる向上を図る。 ○ 服務規律に係る教職員の意識改革を図るとともに、指導の徹底を図る必要がある。		
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い	
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い	
		効率性	<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> やや高い <input checked="" type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い		
今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止		
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止		
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 児童生徒に質の高い教育を保障するため、各種研修・研究会への積極的な参加及び本町の自然、産業、催事、暮らし等を理解する取り組みをし、教職員の授業力や生徒指導力の資質・能力の更なる向上を図る必要がある。 ○ 学校及び教育委員会は、児童生徒の指導等の情報や小中一貫教育活動への移行等を踏まえた小中連携のあり方、進め方等を検討する必要がある。 ○ 勤務時間・休暇・職務専念義務免除等の服務規律、交通規範（飲酒運転根絶）に係る教職員への指導を継続し、徹底する必要がある。		
その他				

3 豊かな自然を保全し、心豊かに、ともに支え合う人を育みます

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		生涯学習の推進 地域コミュニティー振興事業 (地域づくり、人づくりの推進等)	項目番号	3-(1)-①
事業費		2, 525千円	担当	社会教育
事務事業の概要	目的	○ 生涯学習を通じた心豊かなコミュニティーの振興を図るため、地域ごとの課題の解決に関わり、町民が主体的に考え、協働して解決していくための「仕組みづくり」を進め、地域の教育力を高めるとともに、連帯と共生で活用ある学びと地域づくりを推進する。		
	実績	○ 黒松内町生涯学習センター本部事業 (生涯学習：生涯学習講座(3講座) など) ○ 黒松内町地域づくり振興協議会事業(地域づくり振興会5地区) ○ 地域づくり支援員の配置(白井川、大成・豊幌、中ノ川地区) ○ 地域づくり支援員活動業務委託事業 ○ 地域づくりセミナー 1回		

点検・評価	成果	○ 地域づくり振興会の設置及び地域づくり支援員を配置したことにより、各地域が課題解決のために、町民自ら地域の活性化を目指す独自活動が展開され、新型コロナウイルス感染症の予防のため、機会は少ないが、親睦を深め、心豊かで潤いと活力ある地域づくりが推進された。 ○ 町民主体による地域づくりに関する意識の共有化が進み、地域が一体となった活動が展開された。				
	課題 (問題)	○ 各団体・地域のリーダーの育成が必要である。 ○ 学習ニーズを探り、現状を分析しながら、人材づくりにつながる地域課題解決型の新たな学習の機会、課題の明確化が必要である。				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 軽微な改善	<input checked="" type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 各地域における次世代を担うリーダーの育成と合わせて、活動体制(母体・地域割等)の見直しが急務であり、活動する町民が限られ多忙感が生じているため、社会福祉協議会等との連携や組織の統合、若手グループとの連携等を図る必要がある。 ○ 町民の減少が進み、各地域が単独で事業を行うだけでなく、地域同士がつながり、合同で行う機会も求められる。 ○ 地域おこし協力隊の活用、人材育成、企業化の支援が必要である。			

その他	
-----	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		生涯学習の推進 世界文化遺産・西予市交流体験学習事業	項目番号	3-(1)-②
事業費		一 円	担当者	社会教育
事務事業の概要	目的	○ 世界文化遺産の見学等では、平和の尊さを学ぶとともに、北海道で体験ができない歴史や生活文化に触れる。 ○ 姉妹市町提携を結んでいる愛媛県西予市では、黒松内町とは気候風土や生活文化が異なる地域で生徒同士の交流を行うことにより、郷土への愛着、自らを律しつつ、他人と協調する心などを育む。		
	実績	※ 新型コロナ感染症予防のため、少年交流派遣推進事業は中止		

点検・評価	成果	※実施した場合の成果 ○ 事前学習では平和を考え、現地での被爆体験者からの講話や広島平和記念資料館、原爆ドームなどの施設見学を通し、平和・生命の尊さを再認識するとともに、我が国の歴史や文化に直接触れることができた。 ○ 西予市の施設見学や体験、中学生との交流を通し、生徒の視野が広がり、責任感と協調性を持った豊かな人間関係や感性を養うことができた。				
	課題 (問題)	○ 中学校と平和学習や姉妹市に係る現在の授業内容を聞き取り、参加者がより効果的な学び・体験にする必要がある。 ○ 社会教育事業として、普段、交流が少ない中学生を引率するためには、十分な事前準備と職員のスキルが必要である。				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 参加生徒の募集に当たり、事前にこの体験学習の目的等を紹介し、生徒本人の取組の意欲を高め、多くの参加を促す。 ○ 本町と西予市との結びつきを、小中学生の学びに取り入れる指導体制を構築する。

その他	
-----	--

4 文化、スポーツの環境を整え、機動的な組織づくりを進め、ふるさとと平和を愛する人材を育みます

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	文化の振興・読書活動の推進 文化・芸術活動の推進事業 (文化芸術活動への参加機会の拡充)	項目番号	4-(1)-①
事業費	42千円	担当	社会教育
事務事業の概要	目 的	○ 生涯を通じて、心のゆとりや潤いにつながる文化に親しむことができる環境づくりを進めるため、地域に根ざした自主・自発的な文化活動を促進する発表の場や機会の提供、芸術鑑賞等の文化に触れる機会の充実を図る。	
	実 績	○ 黒松内町文化団体連絡協議会事業 (総合文化祭事業(展示のみ)、文化・余暇自主活動)	

点 検 ・ 評 価	成 果	○ 文化団体連絡協議会の各加盟団体は、各団体において活動の発表の場を総合文化祭等で積極的につくり、会員相互の親睦及び町外の人たちとも交流するなど、自らを高めることとともに、広く町民への参加を促すなどの活動を展開しており、コロナ禍で活動の制限はあったが、心のゆとりや潤いにつながる文化に親しむことができた。				
	課 題 (問 題)	○ 文化団体連絡協議会においては、会員及び指導者の高齢化、後継者不足などから会を存続できず、解散又は活動の休止が見られていることから、指導者の養成、リーダーの発掘、新しい文化活動を見出すことなどが必要である。				
	評 価	必要性	<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い
効率性		<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高 い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い	

今 後 の 方 向 性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡 充	<input checked="" type="checkbox"/> 維 持	<input type="checkbox"/> 縮 小	<input type="checkbox"/> 休 廃 止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維 持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休 廃 止
	今 後 の 取 組 方 向 (改善点等)	○ 地域に根ざした自主・自発的な文化活動を継続するためには、今までとは異なる新しい方法で、広く周知することが必要である。 ○ 文化団体連絡協議会などが開催する文化事業や文化活動を支援するとともに、近隣町村との芸術鑑賞情報の提供や文化団体・施設などのネットワークづくりなど、広域的な文化事業の取り組みも進めていく必要がある。			

そ の 他	
-------	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)		文化の振興・読書活動の推進 文化財の保存、活用事業 (町指定保存木、郷土資料・生活民具等)	項目番号	4-(1)-②
事業費		600千円	担当	社会教育
事務事業の概要	目的	○ 国の天然記念物のブナ自生北限歌オブナ林は勿論のこと、本町の貴重な文化財である町指定保存木を保存・活用してきたが、今後は、郷土資料や生活民具も調査・整理するなど活動幅を広げ、多様な自然・歴史・文化等に関する町民の理解を深める。		
	実績	○ 文化財保護委員会 開催なし ○ 町指定保存木等の現状把握 ○ 郷土資料・生活民具等収集(豊幌地区生涯学習館等で管理・展示) ○ 郷土資料の整理(台帳整理等)や保存作業 ○ 町文化祭郷土資料展示(総合文化祭) ○ 町民有志による郷土資料保存サークル「ふるさと語ろう屋」活動		

点 検 ・ 評 価	成果	○ 町文化祭のふるさと語ろう屋の郷土資料の展示を通じて、町民の地域文化への認識が深まり、誇りと愛着を育むことができた。 ○ 収集してきた郷土資料の整理(台帳整理等)や保存作業は、アドバイザーの指導を受け、ふるさと語ろう屋の協力により実施している。併せて、収集すべき郷土資料の基礎的な知識を得ることができた。				
	課題 (問題)	○ 郷土の近代生活史や文化、失われつつある生活民具など貴重な資料に目を向け、継続した資料の整理・保存作業と、再評価や伝承につながる学習機会を提供するなど、地域文化の保存・活用に努める。 ○ 定期的に町指定保存木の現況を把握し、適切な保存対策を講ずるなど、保存木の管理に努める必要がある。				
	評 価	必要性	<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い
効率性		<input type="checkbox"/> 高 い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高 い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低 い	

今 後 の 方 向 性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 維 持 <input type="checkbox"/> 縮 小 <input type="checkbox"/> 休 廃 止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維 持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽 微 な 改 善 <input type="checkbox"/> 抜 本 的 改 善 <input type="checkbox"/> 休 廃 止
	今後の取組方向 (改善点等)	○ 郷土に根ざした生活文化(民具、記憶等)等を後世に確実に伝えるためには、ふるさと語ろう屋活動と連携し、個人の記憶の聞き取り、また、町内に埋もれている生活民具を発掘するなど、町民が郷土の歴史や文化的遺産に触れる機会の拡充に努める必要がある。 ○ 老朽化している豊幌地区にある生涯学習館に替わる保管・展示施設を、令和3年度中に決定する必要がある。

そ の 他	
-------	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	文化の振興・読書活動の推進 ふれあいの森情報館活動事業	項目番号	4-(1)-③
事業費	15,494千円	担当	社会教育
事務事業の概要	目 的	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふれあいの森情報館は、基本的な図書館機能と合わせて、地域文化の向上を図る事業を行うとともに、町民の交流の場としての役割を併せ持つ施設であることから、一般図書資料はもとより、広範多岐にわたる学習ニーズに対応しながら町民の生活課題に関する学習や地域活動の支援を行う。 ○ 子供の読書環境を豊かにするために、情報館が中心となり、学校・家庭との連携を図る。 	
	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 読書活動の推進事業（情報館友の会との協働による運営） } <ul style="list-style-type: none"> 情報誌の発行、親子読書活動の実施、リクエストの受付、図書資料の購入、学校図書共同購入、広瀬子ども文庫基金の活用、レファレンス対応、サロン活動、学校等への出前読み聞かせ、本の宅配サービス など 入館者数 5,952人、貸出冊数 19,495冊、視聴覚資料貸出 中止 インターネット利用件数 中止、登録者数 3,330名、蔵書数 36,528冊 ○ 情報館友の会の活動支援 ○ 地域ステーション（白井川地区）の設置 ○ 子ども読書の読書活動推進計画の策定 	
点検・評価	効 果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報館友の会との協働により施設運営・事業展開をしていることから、きめ細かな町民サービスや親子・児童向けの読書活動に工夫を凝らしながら、生活の中に読書を取り入れることができた。 ○ 地域ステーションの設置で、市街地以外の町民の読書環境を整えることができたが、利用頻度が少ないため、利用増につながる工夫が必要である。 ○ 図書システム及び公用車の更新により、運営体制の安定ができた。 ○ コロナ禍の中でも、感染防止対策に取り組むことで開館を継続し、また、臨時休館時等には本の宅配サービスするなどにより、貸し出し冊数の増加につながった。 	
	課 題 (問 題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供や高齢者らの読書環境を豊かにするために、学校、保育園、福祉施設と連携し、団体貸出しや出前読み聞かせ等を積極的に実施しているが、関係機関（保健福祉課・福祉施設等）とのより緊密な連携が必要である。 ○ 利用者が固定化しつつあることから、登録者・利用率、事業内容、図書及び情報資料の選定などを検証し、自発的な学習活動支援の充実につなげるとともに、転入者へのピーアールに努める必要がある。 	
	評 価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 い <input type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低 い
	評 価	有効性	<input type="checkbox"/> 高 い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低 い
評 価	効率性	<input type="checkbox"/> 高 い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低 い	
評 価	達成度	<input type="checkbox"/> 高 い <input checked="" type="checkbox"/> やや高い <input type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低 い	
今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 維 持 <input type="checkbox"/> 縮 小 <input type="checkbox"/> 休 廃 止	
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維 持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休 廃 止	
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 図書司書が1名体制であるため、複数又は正職員化や他図書館での研修をすることにより、司書活動の充実を図る必要がある。 ○ 町民が減少している中、入館者及び貸出冊数も減少傾向であることから、図書以外をテーマにしたサロン活動などにも取り組む。 	
そ の 他			

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	文化の振興・読書活動の推進 ブナセンター活動事業	項目番号	4-(1)-④
事業費	21,908千円	担当	文化振興
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブナセンターは、町の自然・文化・歴史等の情報を収集・発信する博物館的機能と、3つの工房を活用した文化活動を支える機能を有する施設であり、町内外者を対象とする交流施設として運営する。 ○ 生物多様性に富んだ自然やそこから生まれる文化等を誇りに思う町民を育てる。 	
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ のべ来館者 11,142人 ○ 主催事業 <ul style="list-style-type: none"> 参加型調査(花ごよみ)、ブナの実調査、自然観察会、わくわく土曜日ランド、ブナセンター講座、ブナ里自然塾 等 ○ 関連事業 <ul style="list-style-type: none"> 黒松内生物多様性保全奨励事業、黒松内ブナ林再生プロジェクト、ブナ友の会、森林療法実践プロジェクト、関係団体補助金 等 ○ 学校教育支援事業 学校教育部 ○ 展示 企画展示・季節展示 ○ 調査研究・資料収集活動 共同研究、研究者住宅 	

点検・評価	効果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流施設として、自然体験・工房活動等を多くの方々に提供でき、また、町民とともに観察会や植樹等の活動を通じて、自然環境保全の大切さを伝えることができた。 ○ 学校教育部では、町内外の学校等の依頼を受け、環境教育を実践した。 ○ 森林療法では、プログラム等の実施母体が設置され、健康面の効果が検証が開始された。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ より多くの来館者や来町者につなげるため、職員のスキルアップとともに、観光協会や黒松内ぶなの森自然学校等の関係者との連携を積極的に図り、共同プログラムの構築や情報を発信する必要がある。 ○ 様々な活動や調査で得た情報・資料を整理し、町内の自然をまとめた図鑑の発行に向けて、動植物調査の実施、原稿の作成等を計画的に進める。 ○ 町内の工房利用者、参加型調査の協力者は高齢化や減少しているため、利用者等ニーズや方法を検証し、新たな利用者等となる取り組みをする。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本町の友の会を含めた自然を楽しむ方々に応えるため、町内関係者・団体との環境情報の共有や活動を係る中心的な役割を担う必要がある。 ○ 森のようちえん、わくわく土曜日ランド、小・中学校の授業等の、町内の児童生徒に行われている環境教育の効果を踏まえ、小中連携のつながりある取り組みを展開する。 ○ 本町の自然・森林環境を活かした森林ウォーキングにおける健康面の効果を、広く町民及び関係団体等に周知し、普及を進める。

そ の 他	
-------	--

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	生涯スポーツの振興 生涯スポーツの推進事業	項目番号	4-(2)-①			
事業費	2,019千円	担当	社会教育			
事務事業の概要	目的	○ 健康とスポーツの町の趣旨に添い、町民の誰もが体力や年齢などに応じてスポーツに親しみ、健康増進と体力の向上を図るとともに、青少年の健全育成、地域コミュニティーの振興を推進するため、町民が継続して様々なスポーツに親しみ、楽しむことができる生涯スポーツの推進を図る。				
	実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツフェスティバル運営委員会事業 { 町民交流運動会、雪中レクリエーション、各種スポーツ教室・体験会、就学時前教室、成人体力チェック、小学生夏・冬休み企画 など } ○ 体育協会事業、スポーツ少年団への補助 { 加盟団体への活動補助、全国・全道大会参加経費補助、近隣町村少年野球大会 など } ○ 各種スポーツイベント (日本ハムキッズサマーキャンプ) ○ スポーツ推進事業 (健康教室や運動指導、スポーツ推進委員活動、健幸ポイント など) ○ 2020東京オリンピック・パラリンピックホストタウン事業 				
点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ事業の実施に当たっては、スポーツ推進委員・体育協会・スポーツ少年団・各実行委員会等と連携を図り、広く町民の意見を取り入れ、参加しやすい環境づくりを図りながら事業を実施したことにより、多様なスポーツ活動等を通じて、青少年の健全育成、町民の健康保持や体力増進などに加えて、地域のコミュニティの醸成を図ることができた。 ○ 総合体育館では、コミュニティサロンで町民グループによるカフェ活動が継続し行われ、スポーツ以外の町民の利用もみられている。 ○ ホストタウンの認定を受け、町民とともにスリナム共和国選手団の受け入れ、応援事業の準備を行った。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町民が気軽にスポーツを親しむ各種事業では、参加者が固定化してきており、各年代層のニーズにあったスポーツ活動を取り入れる必要がある。 ○ 町外からも参加がある大会では、近年、参加数が減少傾向にあるため、競技内容や周知方法等の見直しを図る。 ○ プールや野球場は老朽化が進んでいることから、計画的な修繕等が必要である。なお、水泳スポーツ少年団では、寿都町のプールも使用している。 				
	評価	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高い	<input type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休廃止				
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善 <input type="checkbox"/> 抜本的改善 <input type="checkbox"/> 休廃止				
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ指導者を養成するとともに指導力の向上を図り、スポーツ教室(体験型)などを通じて底辺の拡大に努める必要がある。 ○ 児童生徒の減少に伴いスポーツ少年団や中学校部活動では、競技者の確保が難しく、町内スポーツ団体との連携や外部指導員の在り方を関係者と協議し、取り組む必要がある。 				
その他						

点 検 ・ 評 価 調 書

点検・評価項目 (事務事業名)	生涯スポーツの振興 キャンプ場活動事業	項目番号	4-(2)-②
事業費	13,488千円	担当	文化振興
事務事業の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌才オートキャンプ場は、豊かな自然に囲まれ、広々としたテントサイトやたき火の使用等が特徴であり、道央圏を中心に利用者を受け入れる交流施設として運営する。 ○ 平成5年度にオープンし、経年劣化が見られる一部施設・設備等があるため、計画的な修繕・改修を行い、利用環境の向上を図る。 	
	実績	○ のべ利用者人数 2,305人、開園日数 103日	

点検・評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ ブナセンターと連携した体験活動やオープンイベント等を実施することにより、利用者が楽しめるキャンプ場づくりを行うことができた。 ○ コロナ禍の中、臨時休園後の7月から感染防止予防対策を行い、利用者を受け入れることができ、前年度の35%の実績があった。 				
	課題 (問題)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の高齢化に伴い利用者の減少になっているため、初心者層を呼び込むイベントの実施や新たなニーズの把握するなど新規利用者の増加を図る。 ○ ホームページによるタイムリーな記事紹介、消耗品の配置、レンタル品の充実、インターネット予約、テントサイト環境整備を継続し、新たに利用者の視点を持ったサービスや地場食材の販売等を、全職員の意識共有の中で運営する必要がある。 ○ 町民の利用が極めて少ないことから、デイキャンプも含め手軽にキャンプ場を楽しめるイベント等を実施する。 				
	評価	必要性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
		有効性	<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い
効率性		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	
達成度		<input type="checkbox"/> 高い	<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	<input type="checkbox"/> やや低い	<input type="checkbox"/> 低い	

今後の方向性	事業規模	<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 休廃止
	手法の改善	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 軽微な改善	<input type="checkbox"/> 抜本的改善	<input type="checkbox"/> 休廃止
	今後の取組方向 (改善点等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設を運営する教育委員会職員と委託職員が、共通理解を持ち、一体となりサービス向上を高める職場環境を早急につくる必要がある。委託職員の高齢化や委託料内の人件費単価等を踏まえ、安定した働き手の確保のため、指定管理者など運営主体の見直しの着手も必要である。 ○ キャンプ場と関連施設・店舗等が、地域資源や食材を活用に向けて連携し、利用者にとって魅力ある運営を進めるとともに、町内で体験や消費活動につながる仕組みづくりが必要である。 ○ 特に、管理棟デッキやバンガロー、各サイトの流し台や芝生の経年劣化が激しく、その他施設も含め修繕工事等を計画的に実施する。 			

その他	
-----	--

6 全体評価

黒松内町教育委員会では、各教育関係機関・団体と連携を図り、協働で進める開かれた教育行政を推進することが、子供たちに「生きる力」を、地域に「自立」と「共生」の力を育む上で最も大切なことと考え、また、第2期町総合教育大綱で定めた「深く、強く、広い心の黒松内人を育む」の基本理念のもと、豊かな教育環境と町民のニーズに応える生涯学習の充実を図るため、各種事業等を実施してきました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、4月から5月には小中学校の臨時休業や分散登校及び社会教育施設は臨時休館を、12月にあった町内初の陽性者発生時の対応など、町民の予防と生活の調和をどのように保障するかが、行政に与えられた大きな課題でありました。教員委員会では、学校及び社会教育施設の休止、行事や教室、会議等の開催の中止・延期、保育園及び児童館の予防などを対応した1年間でありました。

パークゴルフ大会や駅伝大会等の交流イベントが中止になったことで、町の元気さは低下しましたが、一方、防災行政無線で幼児や中学生の応援メッセージが町内に流れたことで元気をもらったほか、町営塾ではオンラインにより遠方にいる大学生の指導を受けるなど新たな取り組みにつながりました。

令和2年度教育行政執行方針に掲げた教育委員会が主管する主な事務・事業について、教育に関する事務の点検及び評価に関する実施方針（平成21年4月23日教育委員会決定）に基づき、点検及び評価を実施しましたのでその全体評価について報告します。

(1) 学校と地域、保護者、関係団体が一体となりまち全体で子供たちを守り育みます

子育ては、家庭だけではなく、社会全体で取り組む必要があります。幼児期から学齢期までの連続性を持ち、幼児教育、学校教育、社会教育等にわたり、様々な人々と関わり、多様な経験を重ねられるよう、また、子育て世代のニーズに寄り添った施策を実施してきました。

① 子供の未来を育む子育て支援

少子化や子育て世代における生活様式や価値観等の変化がみられますが、家庭は教育の原点であり、全ての教育の出発点であります。子供が健やかに成長できる環境づくりと多様化する子育てのニーズを探り、幼児期から学齢期までの連続性のある質の高い子育て支援をめざし、児童福祉の分野において実施してきました。

子育て世代の保育園利用者負担の無償化又は軽減や、児童館における児童クラブ活動等を実施し、共働き世帯の子育て環境の安全・安心を図ってきました。

今後も、子育て世代の支援充実のためには、子ども・子育て会議や関係する団

体等の保護者の声を聞き取り、施策への反映が求められています。子どもの少子化傾向、従事する職員や有償ボランティアの不足から、施策全般の見直しが必要です。その中で、乳幼児の一時預かり事業は、ボランティアの高齢化などもあり、令和3年度からは地域子育て支援センターに移行します。

子育てサービス利用者支援事業において、子育ての不安に対する相談指導などを支援する基盤の形成を図り、また、地域子育て支援センターへの運営費補助金を継続して行い、安心して子育て等ができる環境づくりを進めてきました。今後は、両機関が情報や意見の交換を重ね、共同した取り組みや保護者にサービスの情報を積極的に発信する必要があります。

一方、近年、低下している家庭における教育力を高める取組が急務となっています。学校だけではなく、家庭と地域がともに理解を深め、学び合える取り組みと関係性の構築が必要です。特別な支援が必要である乳幼児には、保護者の理解のもと、保育園や南後志児童デイサービスセンター、学校、保健福祉課等と連携した早期からの支援の実施が求められています。

少子化・核家族化などの進行に伴い、人間関係や地域連帯感の希薄化が進んでいる中で、全ての教育の出発点である家庭や地域社会の教育力の向上を図るため、家庭・PTA等と連携し、学習習慣を含む生活習慣の確立、そして、親子ふれあい事業等の家庭教育支援事業やわんぱく探検団等は、地域の学習施設や自然資源を活用した取組に努めてきました。

しかし、子育て世代において、社会的に孤立している状況が一部に見られることから、子供だけではなく、保護者を支えるため、連携を一層強化するとともに、地域全体で子供を守り育てる環境づくりなど、第2期子ども・子育て支援事業計画を基に、今後もさらに家庭や地域社会の教育力の向上に努める必要があります。

(2) 幼児から学齢まで切れ目のない一貫した教育を展開し、未来を担う子供たちを育みます

社会情勢が急激に変化し、グローバル化への対応や、生活や各メディアの多様化、少子高齢化による社会活力の低下などの課題が生じている中で、未来を担う子供たちが夢と希望を持ち、主体的に未来を切り開くことができる能力、社会の中でよりよく生きていける力が求められ、そのための「確かな学力」、「健やかな体」、「豊かな心」をバランスよく身に付けた子供の育成と、その基盤となる教育の環境づくりや各種事業を実施してきました。

①「確かな学力」と「生きる力」の育成

基礎的な知識及び技能を習得し、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学習に取り組む態度などの「確かな学力」の定着と向上や、「主体的・対話的で深い学び」を図るため、学習指導の充実、教育環境・支援体制の充実に努めてきました。

学習支援員等は、各年度の児童生徒の現状を理解した上で、その効果的な支援方法を定め、教員との連携をどのように進めるかが課題といえます。

例年の全国学力・学習状況調査結果では、調査年度による学力の差が見られることから、「確かな学力」の定着と向上を図るため、調査結果などを分析、児童生徒個々の能力を把握、各学校における課題や問題点を明らかにした上で、学校教育プランの見直しや修正による授業改善、家庭や地域と連携した学習習慣を含む生活リズムの改善に向けた取り組みをしており、今後も必要です。

各学校には、ICT環境整備計画に基づきパソコンやタブレット等が整備され、また、令和2年度にはGIGAスクール構想による機器整備も終え、更にICT環境を十分活かすための教職員の活用及び指導力の向上が求められます。

国際交流協力員の活動は定着しており、また、小学校では教科としての外国語と外国語活動が本年度から始まり、先行実施に合わせたALT1名の配置は3年目になりました。学校では、ALTの強みを活かし、指導体制の充実が必要です。

近年、様々な理由から学級に馴染めず、不登校になる児童生徒が見られることから、児童生徒の居場所として自習型の学びを支援する適応指導教室を設置し、2年目の本年度は4名の通級がありました。学校及び保護者が連携し、児童生徒を育む目標の共有が課題です。

児童生徒は、いかなる理由があっても、いじめを行ってははいけません。「いじめを絶対にゆるさない」学校づくりを、町いじめ防止基本方針に基づく各取組や役割を個人、保護者、学校、教育委員会等が担い、地域に暮らす町民の皆さんに、温かい目で児童生徒を見守りいただけることを期待いたします。

また、北海道教育委員会事業を活用し、スクールカウンセラーを月1回配置し、児童生徒や保護者の困り感や不安に対しても学校と連携をして取り組みます。

児童生徒が安全・安心な環境で学ぶことができるよう、各学校施設（設備）の緊急を要する箇所（修繕等）を行いました。なお、本年度、学校及び学校給食センターの長寿命化計画を総務課にて策定しました。

偏った栄養摂取、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子供たちの健康を取り巻く現状には問題点がみられていることから、子供たちに「食」に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、栄養教諭らによる指導に努めてきました。引き続き、年間指導計画により適切な指導、家庭と連携した食習慣の改善に努めるとともに、食育の生きた教材となる学校給食の提供、さらに、食を通じて地域等を理解することや食文化の継承を図ることが求められます。全ての児童生徒には、子育て世代の経済面での支援策とした学校給食費補助金とその他の公的支援制度を含めると、学校給食を無償で提供しています。

老朽化している学校給食センターは、建設地の決定及び実施設計を終え、令和3年度には工事に着手し、令和4年8月の供用開始に向けて着実に取り組みいたします。

白井川小学校及び白井川中学校は、白井川地区の学校としてはもとより、児童生徒一人ひとりの個性・特性に応じた指導を行う小規模校として、また、地域・自然体験活動等を通じた学び合いから心身の健やかな成長と確かな学力、豊かな心を育む学校環境として評価され、多様な学習ニーズに応じた学校選択肢のひとつになっています。しかし、両校は本町の学校再編成要綱に定める児童生徒数を下回っていることから、地域の教育環境も踏まえて学校、保護者、地域の方々と情報や課題の共有化する場を設置する必要があります。

②地域と共にある教育の推進

各学校は、地域とともにある学校に転換し、将来も組織的・継続的に取り組むための学校運営協議会設置に向けて、平成30年度から黒松内中学校をモデル校に取り組みを開始し、本年度、4校には2地区制の学校運営協議会を設置しました。

併せて、社会教育では地域と一体となり子供たちを育む地域学校協働本部を昨年度の6月に設置しました。学校運営協議会と両輪となり地域学校協働活動や家庭教育支援活動等を進めるため、町民のボランティアの人材バンクの作成、協働・養成が行われる体制づくりに努めます。

総合的な学習は、北限のブナ林をはじめとする生物多様性に富んだ自然環境や、身近に食の生産地に接することができる農村地域、四季折々の美しい牧歌的な風景、高齢者らと触れ合える充実した福祉施設など、本町の地域特性を生かした授業を展開しており、今後も、環境教育や福祉教育、キャリア教育も含め、一層の充実を図り、ふるさとを愛し誇りと思う子供を育む必要がありますが、小中学校の授業内容のつながりがされていないことから、令和3年度にこの課題を整理する必要があります。

③負託に応える学校づくり

教職員の授業力や生徒指導力などの資質・能力の向上を図り、子供たちに質の高い教育を保障するため、各種研修会・研究会等への参加を促し、職務に対する自覚や意欲、学校運営への参画意識を高めてきました。

教職員は、外国語や道徳（特別の教科）、プログラミング教育が加わり、令和2年度からは「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業が始まっていることから、更なる実践的指導力等の向上や教職員人事評価を用いた人材育成、併せて、地域の教育資源や人材の有効活用を図り、その成果が児童生徒に還元され、学校運営との連携へと導く必要があります。そのためには、教育委員会においても、地域を知り、そして、地域が求める学習を進めるため、教職員の学習指導における補完的な研修を、夏休みと冬休みに実施しました。

学校における働き方改革が進む中、教職員として基本である勤務時間・休暇・職務専念義務免除等の服務規律について教職員の意識改革、特に交通規範の遵守等の指導の徹底を継続的に行う必要があります。

保護者・地域の連携協力による学校運営及び改善と充実を図り、信頼される

学校づくりを進めるため、各学校における自己評価及び保護者や学校運営協議会による評価を実施し、公表しております。

(3) 豊かな自然を保全し、心豊かに、ともに支え合う人を育みます

生活や価値観の多様化に伴い、暮らしの中にゆとりや潤いといった心の豊かさが求められています。地域の特性を生かした様々な世代の皆さんの生涯学習の充実のための各種事業を通して、「学びの育ち」を支援する環境づくりを進めてきました。

①生涯学習の推進

町民一人ひとりが学んだ成果を地域社会に生かす環境づくりに努めてきました。子供から青年、高齢者までの生活や考え方が多様で高度化している中、そして、グループの小規模化、異業種間交流の減少などを踏まえ、生涯学習の推進にはより町民のニーズを捉えて、総合的に施策を展開する体制づくりが必要です。

地域ごとの課題解決に積極的に関わり、町民が主体的に考え、協働により解決する仕組みづくりを進めるため、地域づくり振興会を設置し、また、地域づくり支援員などの取組みを始めて11年間経過しました。取組みされている地域では、地域差はあるものの一定の成果が見られておりますので、継続的な取組にするためにも次世代を担うリーダーの育成と地域毎のコミュニティに係る振興像の共有化が急務です。また、地域内人口が減少していることから、教育分野だけではなく、その他の住民活動や福祉分野を集約した新しいかたちを探ることが必要な時期といえます。

社会教育事業に移行した「世界文化遺産・交流体験学習」は、中学2年生を対象に、西予市立中学校等との交流や広島市における平和学習等を行い、貴重な体験になっています。本年度は、残念ながら中止としましたが、より効果的な学びや体験にするためには、中学校と連携し、本体験学習前後の授業のあり方を、構築する必要があります。

町営塾は4年目を迎え、中学生の学びの場として定着しておりましたが、コロナ禍のため、受け入れ生徒数を少人数とし、直接指導から1対1のオンライン指導に変えたことで、中学生は自分の学力に合った進め方が可能となり、集中できる環境につながりました。

(4) 文化、スポーツの環境を整え、機動的な組織づくりを進め、ふるさとと平和を愛する人材を育みます。

文化・スポーツの活動の振興、個性的な地域文化の創造を促すため、各事業の継続的な支援、教室・イベントの開催のほか、指導者の養成などを実施してきました。

①文化の振興・読書活動の推進

生涯を通じて、文化に親しみ、心のゆとりや潤いにつながる環境づくりを進めるため、地域に根ざした自主的・自発的な文化活動を促進、また、町民が文

化活動や芸術鑑賞等の文化に触れる機会の提供に努めてきました。

各文化団体では、会員の高齢化、後継者不足などから指導者の養成やリーダーの発掘などは、以前からの課題であります。解決までには至っておりません。

郷土の歴史や文化、失われつつある生活民具（記憶等を含む）などの収集・保存・活用への取り組みは、町民有志による郷土資料保存サークルとともに進んでおり、現在、保管している生涯学習館が老朽化していることから、新たな保管・展示施設の確保が急がれます。元学芸員をアドバイザーとして招き、課題であった台帳整理や保存作業は、次年度も引き続き実施し、併せて、イベント又は教室等の学習の場を設け、郷土の歴史に興味を持つ町民を育みます。

読書は、子供の成長に豊かな情操や思考力・創造力などを養うために欠かせないものであり、豊富で良質な読書機会を提供するため、ふれあいの森情報館を中心に読書活動を進めてきました。ふれあいの森情報館は、情報館友の会との協働により運営することで、常に町民目線での読書活動に心がけ、身近な存在として定着しています。今後は、本にふれるだけでなく、様々な情報発信の拠点としての機能充実への意識を持ち、また、多様な文化や学習の場として新たな利用者を増やすためには他団体に協力をいただき、サロン活動も展開します。

ブナセンターは、博物館的施設として長年、町の自然・文化・歴史等の情報を収集、発信、体験等をする役割を担ってきました。これからも、来館者を高めるためには、収集した情報の蓄積・発信を高め、単独の取組ではなく、町内で野外活動している団体・個人やブナ友の会、森林療法実践プロジェクト等と協働し、取り組みします。

②生涯スポーツの振興

スポーツは、あらゆる活動の源である健康な体力づくりであると同時に、青少年の健全育成や地域コミュニティの振興に大きな役割を果たしており、子供から高齢者までが様々なスポーツに親しみ、楽しむことができるよう関係団体と連携しながら各種事業の実施と、利用しやすい施設運営に努めてきました。

なお、健康やスポーツを学び、楽しめるよう健幸ポイントの取り組みをし、多くの町民の参加がありました。この取り組みを広げるため、令和3年度からは商店街等とともに行政連携ポイントとして展開をします。

各サークルの指導者の育成、指導力の向上を図るとともに、町民が参加しやすい環境づくりや多世代の層のスポーツ人口の拡大、町外者もサークル活動に加わる姿も見られています。また、近隣町にある体育施設の利用、町外団体等の合宿利用促進等の広域的な取り組みとともに、少年期のスポーツ活動人口の減に伴いスポーツ少年団や部活動の外部指導のあり方を構築する時期を迎えています。

また、森林療法の取り組みは、実証も含めた森林ウォーキングのイベントが開始されましたので、イベントを通じて、健康づくりや心のリフレッシュになるよう町民への日常的な普及が期待されます。

キャンプ場は、交流施設として多くの町外者とともに、町民にとっても親し

みある施設の一つになるようサービスの向上を図り、老朽化している施設改修等を計画的に行う必要があります。

(5) 子供の学びの環境や、生涯学び続けられる環境を整えます。

「豊かに学ぶ」には、学びを支える環境づくりと、学びの意欲にあふれる町民を支えることが求められており、各分野において様々な支援を実施してきました。

教員の働き方改革を進めるためにも、校務支援システムを4校に導入し、業務負担の軽減に加え、情報の共有化を図り、教員が子供と向き合える時間を確保する環境を整えました。

(6) まとめ

令和2年度黒松内町教育委員会が実施した主な事務・事業を全般的に見ると、令和2年2月からの新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う施設利用の制限やイベント、教室等の中止・延期・縮小が一部で行われたため、町民の皆様にはご不便をお掛けすることとなりました。

教育行政に関係する皆様・団体等のご協力もあり、点検の結果、事業は計画どおりに進めることができたもの、残念ながら進めることができなかったものがありました。事業効果では一定の成果が得られ、また、特に学校教育ではICTを活用した新しい取り組みに転換できた貴重な年度であったと評価しています。

また、2020東京オリンピック・パラリンピックにおけるホストタウン事業にも登録され、国を挙げての取り組みに小さな本町も加わり、元気あふれる町に向けた取り組みをすることとなりました。

しかし、今後の地域内の教育を支える白井川地区の学校の適正化と、老朽化した各地区の生涯学習館の存続については、具体的な議論が進められておらず、次年度移行に繰り越された課題といえます。

いずれの事務・事業も、人口減少や少子高齢化等の現状の中で、多様な課題を抱えていることから、この事務・事業の点検及び評価を通して、常に目指すべき姿は何かを意識し、事業効果や改善点などを明らかにするとともに、今後はより限られた財政状況の中、人材の育成を進めながら、将来の望ましい教育行政をしっかりと見定めてまいりたいと考えています。

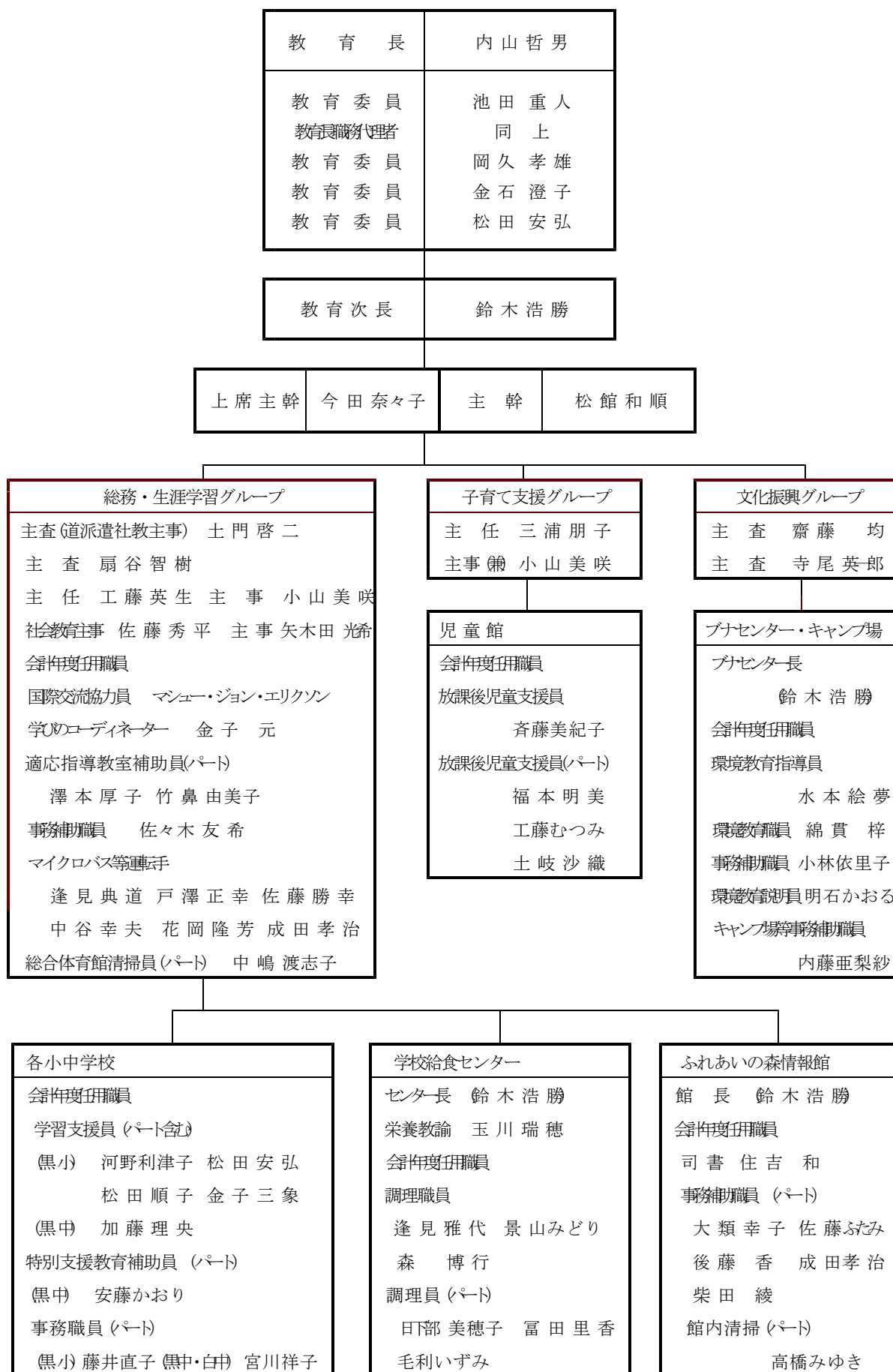
以上、令和2年度教育行政執行方針に沿って、事務・事業の総括責任者としての全体評価といたします。

令和3年8月

黒松内町教育委員会
教育長 内山哲男

参 考 资 料

1 教育委員会組織機構図 (令和2年4月1日現在)



2 教育関係予算の状況（当初予算）

令和2年度における教育予算の総額は386,817千円であり、町の一般会計全体に占める割合は9.5%で、前年度比41,073千円の増額となっています。

この主な内訳は、スクールバス1台購入、情報館の図書システム更新経費、学校給食センター実施設計委託、複数施設の改修工事などです。

なお、国の新型コロナウイルス感染症の予防対策に係る補助金や地方創生臨時交付金、GIGAスクールに係る工事及び備品購入費の補正予算が組まれた特殊の年度となりました。

(単位：千円)

予算科目（項・目）		R2年度予算	元年度予算	比較	備考
児童福祉費	児童福祉総務費	97,147	89,678	7,469	
教育総務費	教育委員会費	1,187	1,190	△3	
	事務局費	24,175	24,920	△745	
	スクールバス管理費	25,634	14,800	10,834	
	総合教育費	17,207	16,735	472	
	小計	68,203	57,645	10,558	
小学校費	学校管理費	21,556	21,761	△205	
	教育振興費	7,287	6,676	611	
	小計	28,843	28,437	406	
中学校費	学校管理費	28,341	24,679	3,662	
	教育振興費	5,817	6,480	△663	
	小計	34,158	31,159	2,999	
社会教育費	社会教育総務費	11,370	10,748	622	
	総合町民センター費	7,493	7,795	△302	
	情報館管理費	14,298	12,731	1,567	
	生涯学習館管理費	5,369	4,066	1,303	
	文化財保護費	723	708	15	
	ブナセンター費	23,822	22,906	916	
	子育て支援費	1,450	889	561	
	放課後子ども活動費	3,186	2,901	285	
	地域づくり活動費	5,146	4,809	337	
	小計	72,857	67,553	5,304	
保健体育費	保健体育総務費	4,515	5,108	△593	
	体育施設費	23,294	22,715	579	

(単位：千円)

予 算 科 目 (項・目)		R2年度予算	元年度予算	比 較	備 考
	学 校 給 食 費	44,552	32,027	12,525	
	キャンプ場管理費	13,248	11,422	1,826	
	小 計	85,609	71,272	14,337	
総 合 計		386,817	345,744	41,073	

3 学校の児童生徒・教職員数

(1) 児童生徒数（4月1日現在）

（単位：人）

学 校 名		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
黒松内小学校	H 30	20	18	24	24	23	19	128
	H 元	18	19	19	23	22	24	125
	R 2	19	17	19	23	23	22	123
白井川小学校	H 30	1	0	3	0	0	2	6
	H 元	1	1	0	4	1	1	8
	R 2	0	2	1	0	4	1	8
小学校 計	H 30	21	18	27	24	23	21	134
	H 元	19	20	19	27	23	25	133
	R 2	19	19	20	23	27	23	131
黒松内中学校	H 30	21	37	29	/	/	/	87
	H 元	18	22	38	/	/	/	78
	R 2	19	18	19	/	/	/	56
白井川中学校	H 30	2	1	0	/	/	/	3
	H 元	1	4	1	/	/	/	6
	R 2	4	1	2	/	/	/	7
中学校 計	H 30	23	38	29	/	/	/	90
	H 元	19	26	39	/	/	/	84
	R 2	23	19	21	/	/	/	63
総 合 計	H 30	/	/	/	/	/	/	224
	H 元	/	/	/	/	/	/	217
	R 2	/	/	/	/	/	/	194

(2) 教職員数（4月1日現在）

※（ ）内は産休又は育休等の職員数、外数、※町職員は学習支援員等

（単位：人）

学 校 名		教職員	養 護	事 務	栄 養	期限付	町職員	計
黒松内小学校	H 30	11(1)	1	1	1	3	3	20(1)
	H 元	12(1)	1	1	1	—	4	19(1)
	R 2	13(1)	1	1	1	1	4	21(1)
白井川小学校	H 30	6	1	—	—	1	—	8
	H 元	6	1	—	—	1	—	8
	R 2	4	—	—	—	—	—	4
小学校 計	H 30	17(1)	2	1	1	4	3	28(1)
	H 元	18(1)	2	1	1	1	4	27(1)
	R 2	17(1)	1	1	1	1	4	25(1)
黒松内中学校	H 30	13	1	1	—	1	3	19
	H 元	15(1)	1	1	—	1	2	20(1)
	R 2	14(1)	1	1	—	—	2	18(1)
白井川中学校	H 30	4(1)	—	—	—	1	—	5(1)
	H 元	3(1)	—	—	—	2	—	5(1)
	R 2	5(1)	—	—	—	1	—	6(1)
中学校 計	H 30	17(1)	1	1	—	2	3	24(1)
	H 元	18(2)	1	1	—	3	2	25(2)
	R 2	19(2)	1	1	—	1	2	24(2)
総 合 計	H 30	34(2)	3	2	1	6	6	52(2)
	H 元	36(3)	3	2	1	4	6	52(3)
	R 2	36(3)	2	2	1	2	6	49(3)

4 各施設利用者数

(1) 総合町民センター（各年度、老人研修室に放課後子ども教室分を集計（件数は未集計））（単位：件・人）

区 分	大ホール		配膳室		控室		青年研修室		婦人研修室	
	件数	利用者	件数	利用者	件数	利用者	件数	利用者	件数	利用者
H30年度	151	4,674	15	245	194	2,651	283	1,752	188	2,234
R元年度	145	2,992	14	142	188	1,404	251	2,036	193	1,286
R2年度	45	867	1	7	88	1,070	192	952	42	911

区 分	生涯研修室		老人研修室		調理実習室		合 計	
	件数	利用者	件数	利用者	件数	利用者		
H30年度	196	672	91	1,136	71	853	1,189	14,217
R元年度	166	386	77	1,832	75	716	1,109	10,794
R2年度	138	258	52	1,544	24	249	582	5,858

(2) ふれあいの森情報館（単位：人）

区 分	開館日数	入館者数	蔵書数	貸出冊数		登録者数		
				総数	1日平均	町内	町外	合計
H30年度	288	11,369	36,589	18,936	65.9	2,372	789	3,161
R元年度	267	9,554	37,492	17,763	62.6	2,416	810	3,226
R2年度	246	9,554	36,528	19,495	72.9	2,505	825	3,330

(3) ミニビジターセンター（単位：人）

区 分		町 内		町 外		町内 団体	町外 団体	その他	合 計
		大人	小人	大人	小人				
H30年度	宿泊研修	7	2	102	2	—	42	—	155
	日帰研修	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	7	2	102	2	—	42	—	155
R元年度	宿泊研修	4	—	106	8	—	42	—	160
	日帰研修	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	4	—	106	8	—	42	—	160
R2年度	宿泊研修	40	14	36	—	—	80	—	170
	日帰研修	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	40	14	36	—	—	80	—	170

(4) 各運動施設

(単位：人)

区 分		利 用 者 数		合 計	備 考
		町 内	町 外		
野 球 場	H30年度	2,313	1,069	3,382	
	R元年度	2,401	987	3,388	
	R2年度	1,321	1,692	3,013	
多 目 的 広 場	H30年度	4,455	()	4,455	平成30年度は、町外 利用者は未集計
	R元年度	4,897	43	4,940	
	R2年度	3,097	265	3,362	
テニスコート	H30年度	4	9	13	
	R元年度	3	10	13	
	R2年度	6	5	11	
町 民 プ ー ル	H30年度	2,274	46	2,320	
	R元年度	2,013	59	2,072	
	R2年度	1,695	12	1,707	
パ ー ク ゴ ル フ 場 (歌 才)	H30年度	494	410	904	利用料納入者数
	R元年度	598	285	883	
	R2年度	856	188	1,044	
パ ー ク ゴ ル フ 場 (道 の 駅)	H30年度	()	()	()	利用料納入者数 平成30年度は、券売 機故障のため、未集計
	R元年度	334	645	979	
	R2年度	152	199	351	
東 山 ス キ ー 場	H30年度	-	-	973	
	R元年度	-	-	171	
	R2年度	-	-	501	
総 合 体 育 館	H30年度	-	-	30,353	
	R元年度	-	-	27,762	
	R2年度	-	-	20,128	

(5) ブナセンター

(単位：人)

区 分	ブナホール	陶工房	木工房	食工房	その他	野外活動	合 計
H30年度	5,704	721	1,130	422	9,956	3,021	20,954
R元年度	6,964	711	1,100	377	10,724	3,109	22,985
R2年度	3,412	715	530	241	3,189	3055	11,142

※野外活動に、学校教育部も含む

(6) オートキャンプ場

(単位：人、件)

区 分	のべ実利用者数	使用料人数	使用料件数	備 考
H30年度	5,847	3,940	1,390	
R元年度	6,703	4,369	1,558	
R2年度	2,305	1,532	840	

※使用料人数と使用料件数は、使用料の対象を集計

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う臨時休館等

- ①各社会教育施設及び運動施設の臨時休館
- ・令和2年4月18日から5月25日まで
(ただし、オートキャンプ場は、6月30日まで)
 - ・令和2年12月9日から12月21日まで
- ②小中学校の臨時休校等
- ・4校 令和2年4月20日から5月31日まで
(うち分散登校は、5月19日から5月29日まで)
 - ・黒松内中学校 令和2年12月9日から12月10日まで